

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 1 1 0 円台に乗せて堅調な推移か

[9月20日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		9月13日～9月17日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.86	110.16(13)	109.11(15)	109.88	-0.06
ユーロ・ドル	1.1815	1.1846(14)	1.1750(16)	1.1774	-0.0040

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	30,500.05	+118.21	日本10年債利回り	0.051	+0.003
ダウ平均株価	34,751.32	+143.60	米10年債利回り	1.338	-0.003

=====

20日 英9月ライトムーブ住宅価格

独8月生産者物価指数

21日 米8月住宅着工・許可件数

米第2四半期経常収支

22日 日銀金融政策決定会合(21～22日)・金融政策発表

黒田日銀総裁記者会見

米8月中古住宅販売件数

米連邦公開市場委員会(FOMC、21～22日)政策金利

23日 スイス銀行(SNB)政策金利

独9月製造業PMI速報値、独9月非製造業PMI速報値

ユーロ圏9月製造業PMI速報値、ユーロ圏9月非製造業PMI速報値

英9月製造業PMI速報値、英9月非製造業PMI速報値

英中銀(BOE)政策金利

カナダ7月小売売上高

米新規失業保険申請件数

米9月製造業PMI速報値、米9月サービス業PMI速報値

米8月景気先行指数

24日 NZ8月貿易収支

日本8月消費者物価指数

独9月ifo景況感指数

米8月新築住宅販売件数

パウエルFRB議長 イベント参加(あいさつ)

【前回のレビュー】テーパリング観測は米国のハイテク株などの重石となる可能性もあり、その場合は円高に振れる要因となる。そうした中、ドル円は米経済指標や米長期金利の動向に左右されながらも109～110円台で一進一退の動きが継続するとした。

【FOMCメンバーによる政策金利見通しに注目】

14日発表の8月の米消費者物価指数の発表以降、ドルは上値の重い動きを見せている。米消費者物価指数は、前月比+0.3%となり、事前予想+0.4%や前回の+0.5%を下回った。前年比は+5.3%となり、事前予想の+5.3%と同水準ながら、前回の+5.4%を下回った。

コア前月比は+0.1%となり、事前予想の+0.3%や前回の+0.3%を下回った。コア前年比は+4.0%となり、事前予想の+4.2%や前回の+4.3%を下回った。米消費者物価指数の前年比を見ると、水準そのものは依然として高水準となっている。

ただ、米消費者物価指数は前月比、前年比ともに物価のピークアウトを感じさせる動きとなっており、一段のインフレ進行への警戒感が後退している。特にコア前年比が低下したことで、米連邦準備制度理事会（F R B）が「インフレ圧力は一時的」とする見解に沿った傾向を見せた。この日は米長期金利も低下しており、ドル売りの動きにつながった。

一方で、16日発表の8月の米小売売上高は前月比、コア前月比ともに市場予想を上回った。また、9月のフィラデルフィア連銀景況指数も予想を上回り、米長期金利が上昇して、ドル買いにつながった。ドル円は110円回復には至らないものの、109.80～109.90台まで戻ってきている。

今後は20日からの週は、21～22日に開催される米連邦公開市場委員会（F O M C）が最大の注目要因となる。F O M Cでは雇用の最大化と物価の安定が最大の責務となる。このうち雇用に関しては、3日発表の米雇用統計で、非農業部門雇用者数が前月比23.5万人増にとどまり、市場予想の73.3万人増を大きく下回ったことで、米雇用情勢への警戒感が広がっている。

最近の米経済指標は強弱入り混じっているというのが実情であり、今回のF O M Cでは、テーパリングの決定はないとみられる。多くの市場参加者が想定している通り、「11月のF O M Cで決定して、12月に開始」「12月のF O M Cで決定して、1月に開始」のいずれかのパターンとなりそうだ。

今回のF O M Cでは、メンバーによる政策金利見通し（いわゆるドットチャート）や経済成長率見通し、物価上昇率見通しなどが公表される。ドットチャートに関しては、前回6月時点で、「2023年中に2回の利上げ」とした想定からどう変化があるかが注目される。2022年や2023年の見通しに加えて、今回は初めて2024年の見通しが公表されるため、テーパリング後の利上げ見通しなどがどうなるのかが注目されている。

今回、テーパリングの決定はないにしても、ドットチャートで利上げ時期の見通しの前倒しや物価上昇率の上方修正などがあれば、米長期金利の上昇につながり、ドル買いに傾く可能性が高まりそうだ。今回のF O M Cではテーパリングの決定はないものの、活発な議論により、近いうちの決定と開始を示唆してくることとなろう。ただ、これはある程度織り込まれており、この材料だけでは110円レベルからドル円を大きく押し上げるのは難しそうだ。

そうした中、今回のF O M Cで政策金利見通しが6月時点のように前回から大きく前倒しされるような事態となれば、110円台を固めて111円台に乗せて一段高となろう。一方、そこまでのサプライズがなくとも、金利の先高観を感じさせる見通しが示されれば、110円台に乗せて堅調な推移となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、109.00～111.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、21日に米8月住宅着工・許可件数、米第2四半期経常収支、22日に日銀金融政策決定会合（21～22日）・金融政策発表、黒田日銀総裁記者会見、米8月中古住宅販売件数、米連邦公開市場委員会（F O M C、21～22日）政策金利、23日に米新規失業保険申請件数、米9月製造業P M I速報値、米9月サービス業P M I速報値、米8月景気先行指数、24日に日本8月消費者物価指数、米8月新築住宅販売件数などがある。

【ユーロドルは軟調な流れが継続か】

9日の欧州中央銀行（E C B）理事会ではパンデミック緊急購入プログラム（P E P P）による債券購入のペースはこれまでの2四半期と比べて緩やかにするとした。ラガルド総裁が債券購入ペースの減速はテーパリングではないと強調したこともあり、その後はユーロ買いの動きには傾きにくくなっている。

ユーロドルは9月3日に1.19ドル台に乗せた後、下落基調で推移している。1.18ドル付近まで下げた後は1.18ドル台での振幅が続いていたものの16日には長

い陰線を引いて、1.17台半ばまで下落を見せた。26日に実施されるドイツ連邦議会選挙への警戒感を示す向きもある。ドルの地合いは底堅く、ユーロドルは上値の重い展開が続いており、この流れが続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1650～1.1850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、20日に英9月ライトムーブ住宅価格、独8月生産者物価指数、23日にスイス銀行（SNB）政策金利、独9月製造業PMI速報値、独9月非製造業PMI速報値、ユーロ圏9月製造業PMI速報値、ユーロ圏9月非製造業PMI速報値、英9月製造業PMI速報値、英9月非製造業PMI速報値、英中銀（BOE）政策金利、カナダ7月小売売上高、24日にNZ8月貿易収支、独9月IFO景況感指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。